

**授業概要**

社会政策とは、私たちの暮らしと大きくかかわる重要な政策です。ひろがる格差を緩和し、労働環境を整え、民主主義を実践するために国民に必要な政策でもあります。この講義では前半で、そのような社会政策の歴史や背景を学び、社会政策が具体的にどのような影響を私たちに与えてきたのかを理解します。後半では日本の雇用政策や社会保障制度の概要を欧米諸国との比較をしながら学びます。グローバルズムによって日本型雇用慣行の特徴だった企業内福祉が大きく変化した今、社会政策は国民の福祉を大きく左右するようになりました。本講義は身近なことから理解を深める社会政策論の入門です。

**授業計画**

第 1 回	私たちの暮らしと社会政策(ガイダンス)
第 2 回	社会政策の歴史(ドイツ)
第 3 回	社会政策の歴史(イギリスⅠ)
第 4 回	社会政策史(イギリスⅡ)
第 5 回	福祉国家の思想
第 6 回	福祉国家の歴史
第 7 回	労働組合について
第 8 回	新自由主義と社会政策—市場経済の限界
第 9 回	日本における雇用と労働政策—最低賃金・労働環境・雇用保険制度
第 10 回	日本における雇用と労働政策—高齢者・児童福祉
第 11 回	日本における雇用と労働政策—女性
第 12 回	日本における雇用と労働政策—若年
第 13 回	医療保険制度(日本)
第 14 回	医療保険制度(欧米諸国)
第 15 回	総括
第 16 回	試験

**到達目標**

雇用政策、社会保障政策といった社会政策の意義を理解し、歴史的経緯を理解したうえで、我々の身近な暮らしのセイフティー・ネットとしての重要性を理解すること。

**履修上の注意**

確認ペーパーを実施します。

**予習・復習**

確認ペーパーの問題をもう一度考え、自分の意見をまとめておくこと。

**評価方法**

期末テスト(80%) + 平常点(確認ペーパーなど 20%)

**テキスト**

特に定めない。プリントを配布する。